

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
KCI1-417-33-0	2019第4ターム	教養教育(A6231)	1	1	金曜5限
科目名(講義題目)			担当教員		
現代世界の形成と課題g(核兵器の歴史と未来2ー「原爆神話」の呪縛ー)			三澤純		
学修成果とその割合					
豊かな教養・・・30% 創造的な知性・・・30% グローバルな視野・・・30% 汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	対面授業				
授業の目的	核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語る事が出来るようになることを目指します。				
到達目標	①「原爆神話」の形成過程を詳細に説明することができる。 ②「原爆神話」の虚構性を明確に指摘することができる。				
授業の概要	<p>2017年、国連で122ヶ国が賛成して、核兵器禁止条約が採択されました。同年のノーベル平和賞は、この条約採択のために、世界各国の様々な団体や個人をまとめてきたNGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に贈られました。</p> <p>しかし2019年1月、人類絶滅までの残り時間を示す「世界終末時計」は、昨年のまま、「残り2分」と発表されました。この背景には、核保有国が核兵器禁止条約を「非現実的だ」と決めつけ、加盟していない状況があります。世界で唯一の戦争被爆国である日本もまた核兵器禁止条約に反対している国の一つです。核兵器禁止条約は、核を「非人道的な絶対悪」とみる素朴な人間の感覚を出発点としています。そうした中、このような日本政府の態度は、果たして国際社会で受け入れられるものでしょうか？</p> <p>そもそも広島・長崎への原爆投下から、既に73年が経過し、しかも核廃絶の世論が地球規模の広がりを見せているにもかかわらず、なぜ今日の地球上には、人類を幾たびも絶命させうる大量の核兵器が存在しているのでしょうか？本講義では、核開発と核被害の歴史を振り返りながら、核兵器廃絶への道を展望することにします。</p>				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		「世界終末時計」の歴史1	「世界終末時計」とは、核戦争などによる人類の絶滅を午前0時になぞらえ、その終末までの残り時間を「零時まであと何分」という形で象徴的に示す時計である。その歴史をたどる。		
2		「世界終末時計」の歴史2	「世界終末時計」の歴史をたどる続編。		
3		「人体実験」という視角1	「人体実験」という視角から原爆開発過程と原爆投下とを見通そうとする試みの1回目。		
4		「人体実験」という視角2	「人体実験」という視角から原爆開発過程と原爆投下とを見通そうとする試みの2回目。		
5		「原爆神話」考1	今日でも生き続け、核廃絶への道に立ちただかっている「原爆神話」の形成過程をたどる講義の1回目。		
6		「原爆神話」考2	今日でも生き続け、核廃絶への道に立ちただかっている「原爆神話」の形成過程をたどる講義の2回目。		
7		「原爆神話」考3	今日でも生き続け、核廃絶への道に立ちただかっている「原爆神話」の形成過程をたどる講義の3回目。		
8		「原爆神話」からの脱却	現代社会を生きる私たちが、「原爆神話」の虚構性に気付くことの歴史的意義について考える。		
テキスト	なし。毎回、レジュメと資料プリントを配布する。				
参考文献	西島有厚『原爆はなぜ投下されたか』(青木書店、1968年) 荒井信一『原爆投下への道』(東京大学出版会、1985年) こうの史代『夕風の街 桜の国』(双葉社、2004年) 山口彊『ヒロシマ・ナガサキ 二重被爆』(朝日文庫、2009年)				
履修条件					
評価方法・基準	学期末試験(80%)と開講期間中に実施する2回のレポート(20%)とを総合的に判断して評価します。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト(講義中にプリントを配布する。)				
実務経験を活かした授業	非該当				